



2023年11月10日

各 位

会社名 株式会社ヨコオ
 代表者名 代表取締役兼執行役員社長 徳間孝之
 (コード番号 6800 東証プライム市場)
 問合せ先 執行役員 SCI 推進本部長 多賀谷敏久
 (TEL 03-3916-3111)

営業外収益（為替差益）の計上及び2024年3月期第2四半期連結累計期間の
 業績予想値と実績値との差異並びに通期業績予想の修正に関するお知らせ

2024年3月期第2四半期連結累計期間における営業外収益（為替差益）の計上及び2024年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想値と実績値との差異並びに通期の連結業績予想の修正につきまして、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 営業外収益（為替差益）の計上

当第2四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）において、急激な為替相場の変動により、為替差益449百万円を営業外収益に計上いたしました。

第1四半期連結会計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）においては為替差益1,446百万円を計上済みであるため、当第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）におきましては、為替差益1,895百万円を営業外収益に計上しております。

なお、上記の金額は、当社グループが保有する外貨建て債権・債務の決済及び期末為替レートによる評価替えて発生したものであり、今後の為替相場の状況により変動いたします。

2. 第2四半期連結累計期間（2023年4月1日～9月30日）の業績予想値と実績値との差異

	前回発表予想 (A) (2023年8月7日 公表)	今回実績 (B)	増減額 (B-A)	増減率 (%)	(ご参考) 前年同四半期累計実績 (2022年4月1日～9月30日)
売上高 (百万円)	35,000	36,794	+1,794	+5.1	40,207
VCCS	25,300	26,491	+1,191	+4.7	21,980
CTC	5,900	6,188	+288	+4.9	13,054
FC・MD	3,600	3,903	+303	+8.4	4,982
インキュベーション センター	200	207	+7	+3.9	181
その他・調整額	—	4	—	—	7
営業利益 (百万円)	△700	△120	+579	—	3,507
VCCS	400	717	+317	+79.3	△1,287
CTC	△500	△461	+38	—	4,388
FC・MD	△250	△46	+203	—	655
インキュベーション センター	△350	△337	+12	—	△255
その他・調整額	—	7	—	—	7
経常利益 (百万円)	0	1,701	+1,701	—	6,538
親会社株主に帰属する 四半期純利益 (百万円)	△150	958	+1,108	—	4,179
1株当たり四半期純利益 (円 銭)	△6.43	41.13	—	—	179.28

3. 通期（2023年4月1日～2024年3月31日）の連結業績予想の修正

	前回発表予想 (A) (2023年8月7日公表)	今回修正予想 (B)	増減額 (B-A)	増減率 (%)	(ご参考) 前期実績 (2023年3月期)
売上高 (百万円)	72,000	75,000	+3,000	+4.2	77,962
VCCS	51,200	54,900	+3,700	+7.2	46,520
CTC	13,000	12,000	△1,000	△7.7	22,374
FC・MD	7,400	7,700	+300	+4.1	9,067
インキュベーション センター	400	400	—	—	—
営業利益 (百万円)	200	200	—	—	4,739
VCCS	1,100	2,100	+1,000	+90.9	△2,094
CTC	△150	△1,100	△950	—	6,169
FC・MD	△50	△100	△50	—	664
インキュベーション センター	△700	△700	—	—	—
経常利益 (百万円)	900	1,400	+500	+55.6	5,675
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	450	750	+300	+66.7	3,147
1株当たり当期純利益 (円 銭)	19.30	32.17	—	—	135.01

4. 理由

(1) 第2四半期連結累計期間

売上高につきましては、VCCS セグメントにおける受注増や、円安進行に伴う海外売上高の増加などにより、すべてのセグメントが予想値を上回りました。

営業損益につきましては、VCCS セグメントにおける増収や CTC/FC・MD セグメントにおける固定費の徹底抑制と円安効果などにより、すべてのセグメントにおいて損益が予想値を上回りました。

経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、円安による為替差益 1,895 百万円の計上（前回予想時は為替差益 700 百万円の見込み）などにより、予想値を上回りました。

(2) 通期

売上高につきましては、当第2四半期連結累計期間の実績及び第3四半期以降の受注見込みを踏まえ、後掲「5. 予想の前提となる条件等」の下、上記3. のとおり修正いたします。

営業利益につきましては、VCCS セグメントにおいて増収、事業構造改革及び物流費減少などに伴う損益改善を見込む一方、CTC セグメントにおける減収及び FC・MD セグメントにおける事業構成変化などに伴う減益が見込まれることから、上記3. のとおり修正いたします。

経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、想定為替レート 1 米ドル=145 円のもと、為替差益 1,200 百万円などを見込み、上記3. のとおり修正いたします。

5. 予想の前提となる条件等

2024年3月期の通期見通しにつきましては、予想の前提となる条件を次のとおり想定しております。

- ・ 当社の主要市場である自動車市場につきましては、世界的な半導体不足の影響が緩和され、顧客の挽回生産により、生産・販売は高水準で推移するものと想定しております。
- ・ 半導体検査市場につきましては、2023年3月期下期以降の半導体市場の落ち込みが今年度いっぱいには継続し、次年度以降、徐々に回復するものと想定しております。

- ・携帯通信端末市場につきましては、世界的な景気悪化の影響により POS 端末など電子機器端末の伸び悩みが見込まれ、今年度中は継続するものと想定しております。
- ・先端医療機器市場につきましてはカテーテル等を用いた低侵襲医療への需要が順調に伸長するものと想定しております。
- ・MaaS/IoT 市場につきましては、モビリティの進展や IoT の普及に伴い、順調に成長するものと想定しております。

(注) 本資料に記載の予想数値は、公表日現在入手可能な情報に基づき作成しております。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上